

「ぢ・づ」「じ・ず」の用例

現代仮名遣い(昭和61年7月1日 内閣告示)より

原則「ぢ」「づ」は、「じ」「ず」と書く。

-例-

- | | | | | | | | | | | |
|-----------|---|------------|---|---------|---|----------|---|-----------|---|---------|
| あじさい(紫陽花) | • | いくじ(意気地)なし | • | しおじ(潮路) | • | じじ(爺) | • | たびじ(旅路) | • | ふくじ(服地) |
| わらじ(草鞋) | • | あいず(合図) | • | あず(預)かる | • | あずき(小豆) | • | いいなずけ(許嫁) | • | いずみ(泉) |
| いたず(徒)らに | • | いちず(一途)に | • | うず(渦) | • | うず(埋)める | • | うずら(鶉) | • | きず(築)く |
| は(恥)ずかしい | • | ま(先)ず | • | みずか(自)ら | • | めずら(珍)しい | • | ゆず(譲)る | | |



×あぢさい
○あじさい

「ぢ」「づ」は特例でだけ使われる

特例① 同音の連呼によって生じた「ぢ」「づ」

同音の連呼とは、「ちぢむ(縮む)」「つづみ(鼓)」のように、一語の中で「ちち」「つつ」と連続して後部分が濁音化したように意識されていたもの。

【例】ちぢ(千々) • ちぢ(縮)む • つづ(続)く • つづみ(鼓) • つづら(葛籠)
つづ(綴)る



「いちじく」と
「いちじるしい」は、
この例にあたらな
いので注意!

特例② 二語の連合によって生じた「ぢ」「づ」

複合語の語頭音が「ち」「つ」であったものが濁音化した場合、もとの語との対応を示すために、「ぢ」「づ」を用いるもの。

●「ぢ」の例

うわぢょうし(上調子) • かけぢゃや(掛け茶屋) • こ(小)ぢんまり • そこぢから(底力) • ちかぢか(近々) • てぢか(手近)
はなぢ(鼻血) • ひぢりめん(緋縮緬) • まぢか(間近) • みぢか(身近) • わるぢえ(悪知恵)

●「づ」の例

あいぞづかし(愛想尽かし) • あいづち(相槌) • いいづらい(言い辛い) • いきづかい(息遣い) • いろづく(色付く) • おくづけ(奥付)
おりづめ(折詰) • おりづる(折鶴) • かいづか(貝塚) • かたづく(片付く) • かなづち(金槌) • きづかれ(気疲れ)
きづく(気付く) • こころづかし(心尽くし) • こづかい(小遣い) • たけづつ(竹筒) • たづな(手綱) • つきづき(月々)
つねづね(常々) • なまづめ(生爪) • ひだりづま(左褌) • ふたりづれ(二人連れ) • ほおづえ(頬杖) • みづくろい(身繕い)
みやづかえ(宮仕え) • ゆうづる(夕鶴) • よこづな(横綱) • わらづと(藁蓑)

次のような語については、現代語の意識では一般に二語に分解しにくいもの等として、それぞれ「じ」「ず」を用いて書くことを本則とし、「せかいぢゅう」「いなづま」のように「ぢ」「づ」を用いて書くこともできる。

せかいじゅう(世界中) • いなづま(稲妻) • かたず(固唾) • きずな(絆) • さかずき(杯) • ときわず(常磐津)
ほおずき(酸漿) • みみずく(木菟) • うなず(頷)く • おとず(訪)れる • かしず(傳)く • つまず(躓)く
ひざ(膝)まず(突)く • く(組)んずはぐ(解)れつ • ひとり(一人)ずつ • ゆうずう(融通) • ～ずくめ(～づくめ)

注意

次のような語の中の「じ」「ず」は、漢字の音読みでもともと濁っているものであって、上記の特例①、特例②のいずれにもあらず、「じ」「ず」を用いて書く。

【例】じめん(地面) • じしん(地震) • じんちょうげ(沈丁花) • ずが(図画) • りやくず(略図)

